

地球環境時代における教育小委員会 第4回議事録

日時：平成17年 12月 6日（火） 17:30～20:00

5

場所：建築会館 305会議室

出席者：吉野博（東北大学）、菅原正則（宮城教育大学）、妹尾理子（住宅総合研究財団）、
田中稲子（名古屋工業大学）、西川竜二（秋田大学）、吉野泰子（日本大学）
10 : 6名

資料：4-0 地球環境時代における教育小委員会（+刊行委員会） 第4回 議事次第

4-1 地球環境時代における教育小委員会 第3回 議事録（案）/菅原委員

4-2 2006年度委員会活動計画案+刊行予定書/吉野（博）主査

15

4-3 刊行企画書/菅原委員

4-4 刊行企画について石井氏と菅原委員とのやり取りを示すメール/菅原委員

4-5 本会の教育業績顕彰制度の枠組みについて/吉野（博）主査

4-6 委員会活動の方向性について/菅原委員

4-7 親と子の建築講座（環境編）「温度や風、光を測ってみよう」報告書/田中委員

20

4-8 持続可能な社会づくりをめざす住環境教育 家庭科を核とした総合的な学びの可能性
（日本環境教育学会大会（2005）発表要旨に加筆修正した資料）/妹尾委員

4-9 地球環境時代における教育小委員会 名簿

議事：

25

1. 議事録確認

前回議事録案（資料4-1）は承認された。

2. 2006年度委員会活動計画および刊行予定について

30

菅原委員から、標記（資料4-2、3）について説明された。これに関して、次のような意見交換があった。

（吉野）「2006年度活動計画」の欄に「成果公開（刊行、シンポジウムなど）の準備」とあるが、準備ではなく、刊行は年度前半に、シンポジウムは委員会終了前後に実施するつもりで取り組みたい。

3. 第3回(12/6)地球環境本委員会の報告

吉野(博)主査から、次の件について報告された。

- ・来年度予算配分が決定した。旅費1~2回分程度。
- ・都市の防災性向上に関する提言が紹介された。
- ・今年の大会で発表梗概の取り下げがあり、白いページがあった(?)。来年度の募集要項ができた。
- ・特別研究委員会のテーマ採択があった。
- ・鹿島学術助成財団の推薦が行われた。
- ・小委員会の成果報告書提出切が2/15。HPにそのまま載る。
- ・国際交流援助基金の申請が毎年3月と9月に行われる。総額100万円。1件15万円程度か。
- ・大賞、文化賞の候補者について委員会からの推薦なし。
- ・来年の大会の協議会関係についてテーマが3つ挙げられている。来年あたりにはこの小委員会からも企画を出したい。

地球環境・構造小委員会からPD「社会ニーズの変化と建築構造」

地球環境防災WGからPD「地球環境と防災

~サステナブルな生活環境を実現する総合的な取り組みをめざして~」

地球環境ビジネスモデルWGから「地球環境のための新たなビジネスモデル創造の可能性」

4. 教育業績顕彰制度について

吉野(博)主査から、標記(資料4-5)について説明があった。詳しくは建築雑誌1月号に掲載予定。

5. 刊行について

菅原委員から、前回委員会後の経過(資料4-4)について説明があった。これに対して、次のような意見があった。

- (吉野)刊行物の方針は、特別研究委員会の報告書に基づいて、実践事例を中心にデータベースとツールを紹介すると決まっている。これに沿って目次を作って、執筆者を割り当てる作業に入って欲しい。次回までに石井氏と菅原委員でたたき台を作り、それを委員会の議題としたい。今年度中の脱稿を目指す。

6. 委員会活動の方向性

標記(資料4-6)について、次のことが確認された。

- ・住環境教育事例集の出版は、「来年度中」ではなく当初予定どおり(2006年3月)を目指す。事例は数多く集めたい。
- ・委員会HPについては、アドレスを学会内サーバに移し、最新の内容に更新する(斉藤委員が担当)。
- ・情報ネットワークについては、現在学会で構想している「教育支援建築会議」の中に位置づけられるようなものにしたい。そのための基礎作りを進めたい。三浦委員に原案作りをお願いしてはどうか。エネルギー教育地域拠点大学にこの委員会の委員が応募をして、委員会がその活動支援をすることが考えられる。
- ・名工大グループは、拠点大学の期間を終えたが、事務局だったNPOがHPやMLのメンテナンスを続けている。愛知教育大学の寺本先生が、中部電力や地域の小学校とネットワークを作っている。日本エネルギー環境教育学会との連携は考えられる。

7. 親と子の建築講座「温度や風、光を測ってみよう」実施報告

田中委員から、東海支部環境工学委員会が実施した標記(4-7)について説明があった。これに関して次のような意見交換があった。

- 5 (田中) 参加者を集めるのに苦労した。結局、身内の家族に参加してもらった。
小学6年生には作業が簡単すぎたようだが、それより下の学年は楽しく参加していた。
蒸発冷却については、子供たちに理解してもらえたか疑問。
同じ内容のものを学校エコ改修の検討会参加者にも実施した。

10 8. 持続可能な社会づくりをめざす住環境教育

妹尾委員から、標記(4-8)について説明があった。これに関して次のような意見交換があった。

- 15 (妹尾) 住居領域は、家庭科の中であまり授業に取り上げられない。バリアフリーは「高齢者の生活」と併せて取り上げられることがある。高校の理科の先生に話を聞いても、特に進学校の場合は、環境問題を授業に取り上げる時間的余裕はないとのこと。
- 20 (田中) 出張授業を申し出ても、組み込む余裕が無いと断られたことがある。
愛知県の教育特区制度で高校生が大学の授業を受けに来たことがあるが、その他には、スーパーハイスクールのプログラムで大学に要請が来たときぐらいしかチャンスが無いと思う。
- (菅原) 住環境の内容を、家庭科だけではなく理科や社会などに潜り込ませるようにしないと、なかなか扱ってもらえないと思う。
- 25 (田中) 総合学習の時間は、高校では主要教科の補講に用いられている。進路対策のための職業紹介の時間を利用するしかない。興味のある先生にたどり着くまでに時間が掛かる。
学校エコ改修は環境省主導でトップダウンで行われるので、学校現場との連携の機会と思う。ただ、十分なコミュニケーションがとれるようになるまでには、3年は短い。
学校現場の先生によれば、A4判1枚にコンパクトにまとめた資料ならば、読んで配って紹介することはできるとのこと。
- (妹尾) 家庭科の先生は、住居領域の授業をどれだけ行っているか、実態を知りたい。
(田中) 理科の先生に、環境を扱う時間数を聞いたときには、0.1時間程度という回答であった。

30 9. 次回開催日

次回委員会は、1月30日(月)18:00~20:00に建築会館会議室で行う。

- ・吉野(泰)委員からの話題提供、刊行についてなど。

以上